

ヒアリングシート

回答期限：9月22日木曜日

第2回委員会で協議し抽出された課題について、その課題を生じさせている根本的な要因（背景や原因）を赤字で記入してください。

すでに根本の要因欄へ記載されている内容は、例として事務局が挙げたものです。修正及び追加、削除があれば赤字で記載をお願いします。

【注 意】

すぐに対策を考えたいくなるかもしれませんが、厚生労働省主催の会議及び講演によれば、いきなり課題解決の手段や方法に意識を向けてしまうとゴール（目標）が曖昧になり、効果的な対策が立てられないと言われています。

【日常の療養支援】

課 題	根本の要因（箇条書き）
介護を担う家族の身体的精神的ストレスを軽減する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・「何かあったらどうしよう」と本人・家族が漠然とした不安を持っている。見通しや不測の事態が起きた時の対処法について説明がない。説明があっても忘れている。 ・家族が、医療処置を行うことに慣れていない。自信がつかない。 ・介護する側も高齢者のため体力がない。足腰を痛めやすい。 ・
夜間休日の不安が解消できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク発生時の対処法について知らされていない、もしくは教えられているが忘れている。 ・夜間休日も普段と同じようにケアを受けたい（受けさせなければいけない）と思っている。 ・平日に働いている家族が相談に行ける場所が少ない。 ・
在宅医・リハビリ職・訪問介護等の供給不足をカバーする方策を見つけて取り組む。	【在宅医】 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり開業医で外来診療を行いながら訪問診療している在宅医が多い。 ・
	【リハビリ職】 <ul style="list-style-type: none"> ・療法士の職種によって絶対数が少ない。 PT：OT：ST＝6：3：1（東京都保健医療計画 H30.3 改訂より） ・

	<p>【訪問介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もともと人材不足だったが、離職者も多い。 ・ <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・
本人や家族が、生活状況や健康状態等を医療・介護関係者へ上手く伝えることが困難でも、関係者間の情報共有が円滑に行われるように ICT 等の仕組みを構築する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活状況が気になる患者がいても、医療機関はどこに連絡すればよいのか分からないことがある。 ・ 関係者間でルール化（利用者状態像、要件の確認）がされていないため、特に介護関係者から医師への連携が取りづらい。 ・ これからの時代は情報共有の手段に ICT の活用が必要と思っても、当面の業務連絡はメールや電話、ファックスで不都合がない。 ・
認知症や精神疾患等があるため、必要性があるにも係わらず医療や介護を受けていない人が、適切な医療や介護を受けられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度の体調不良となるまで、健康診断も含め医療機関を受診したことがない。 ・ 利用者の認知機能低下等のため、受診の必要性が理解できない。 ・

【入退院支援】

課 題	根本の要因（箇条書き）
どのような条件が揃えば在宅で生活できるのか、本人家族と関係者が共通認識を持てるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院関係者は、在宅の生活環境が分からない。 ・ 家族や在宅関係者は入院中の本人の様子が分からない。 ・ 本人・家族、在宅と病院の関係者が話し合う機会がない。 ・
在宅療養開始する準備が整えられてから、退院を迎えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入退院の連絡が欲しい専門職に届かない。 ・ 介護認定の結果が出る前に、介護サービスを先行導入するための方法がよく知られていない。 ・
病院を含め、患者・利用者の療養生活を支える関係者間の情報共有の仕組みを整える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者への連絡に手間がかかる。 ・ 情報共有の書式がない（東京都福祉保健局がマニュアルを出しているが知られていない） ・

【急変時の対応】

課 題	根本の要因（箇条書き）
平常時より急変時の備え（相談先や本人情報の明確化等）を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・急変時の備えに必要なは感じているが、具体的に何をしたらよいのか分からない。 ・
自分で意思決定ができるうちに、その内容を表明する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と家族は、急変時のことは考えたくない。関係者は話題に出しにくい。 ・意思決定の選択肢として何があるか知らない。 ・

【看取り】

課 題	根本の要因（箇条書き）
家族及び関係者が看取りに対する理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、関係者も含め、在宅で看取る経験がない人が多い。 ・
本人が望む場所で最終段階を迎えられるよう、家族の負担を軽減して協力が得られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまで続くとも分からない介護状況や家族自身が休息できずに、ストレスが溜まる。 ・
夜間休日でも本人や家族が安心できる支援の提供体制をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・